



テーマ【毛】

家庭用品品質表示法では、動物の体毛を使った繊維の総称を『毛』と呼びます。

ウールなどふだんから親しみのある繊維で、また保温性・吸湿性にすぐれ活用範囲の広い繊維でもあります。

特に寒い冬には、皆さんもよく着用されているのではないのでしょうか。そんな『毛』を特集いたしました。

《特性》

保温性が高い理由として、それぞれの毛がちぢれて互いに絡みあい空気を保有する空間が広いからです。しかし、このために濡れた時に擦れあうと、縮んで固くなります。

また、濡れていなくても、脇や肘など擦れるところには毛玉ができてやすいです。

外側はスケールと呼ばれ水をはじきます。逆に中側は水を吸い取ります。このために、親水性繊維（水を吸う繊維）でありながら、撥水性があります。ですから、汗をかいても湿った感じがせずに、しっとりとした肌触りを維持します。

弾力性があるために、シワになりにくく形くずれしにくいので、着やすい繊維といえます。

ウールの構造

ウールは図のように二重の構造になっています。
図のように表面のスケールがウロコ状になっています。

表皮
(スケール)

皮膚質
(コルテックス)
表皮の内部全体



ウールを水洗いすると、このスケールが開き、それがもまれてフェルト状になります。

ウールを水洗いすると縮むのはそのためです。

防縮加工など水洗いできるウールは、このスケールを取り除いたり、樹脂で表面をコートしてあるのです。

【毛は羊毛と獣毛に分けられます】

ここからは『獣毛』のお話です。獣毛とは羊毛(ウール)以外の山羊・らくだ・ウサギなどをいいます。

《カシミア》

カシミア山羊の産毛(うぶげ)から取れるつくられます。風合いがなめらかで軽く保温性が極めてよい繊維です。非常に高価なものですが、最近は低価格なものが出回っています。しかし、コレには疑問が在ります。本来、カシミア山羊は標高の高い高地で、極寒や乾燥に耐えた放牧に近い山羊から取れる極めて細い産毛(うぶげ)がカシミアです。(ちなみにセーターで約4頭、コートで約24頭必要)

なのにコレだけ安価で大量に出回るのは不自然です。実際には、品質の低いものやウールやレーヨンと混紡されている製品もあるようです。

基本ドライクリーニングですが、独特のヌメリ感や光沢を損ないやすいので、質の高いドライクリーニングが必要です。

《モヘア》

アンゴラ山羊の毛をいいます。セーターはもちろんですが、ズボンやスーツなどに混紡されていることもあります。モヘアは強度が弱いので、ズボンなどを強くプレスすると、繊維がキレてしまうので注意が必要です。

《アンゴラ》

アンゴラウサギの毛をアンゴラといいますが、よくモヘアと間違われますが、ウサギはアンゴラです。フワフワとした長い毛足で、セーターや手袋などによく使われます。非常にデリケートで頻度が増すと風合いが劣化します。

その他に、ギャメル(らくだ)・アルパカ(リヤマ)・ビキューナ(リヤマ)・パシュミーナ(山羊)などがあります。獣毛はデリケート繊維です。柔らかく風合いも良いものですが、繊細がために寿命も短いです。着た後は、ブラシをかけて(アンゴラは除く)から乾かしてください。連続しての着用もさげましょう。